

コミュニティサイトに起因する児童被害の事犯に係る調査分析について (平成22年下半期)

1 調査分析の趣旨

近年、出会い系サイトに起因する児童被害の事犯が減少する一方、コミュニティサイト(出会い系サイトを除く。以下同じ。)に起因する事犯が大幅に増加していることから、関連事業者や保護者等による被害防止対策に役立てるため、平成22年上半期の調査に引き続き、同年下半期の事犯の詳細を調査分析したものの。

2 調査分析の対象

平成22年下半期に検挙したコミュニティサイトに起因する児童被害の福祉事犯等811件(被疑者631人、被害児童638人)

上半期730件(被疑者599人、被害児童601人)

3 調査分析の概要

(1) 被疑者の犯行動機等

犯行動機は、児童との性交目的(約7割)を含めて児童との接触目的が約9割。
(2頁・第2-1)

当該サイトを選んだ理由は、児童との接触に関連した理由が約7割。
(2頁・第2-2)

年齢、職業等プロフィールを詐称した事犯が約4割。
(7頁・第2-10-1)

(2) 被疑者のミニメール利用状況

サイト内のミニメールを利用した事犯が約6割。(5頁・第2-7)

ミニメールから直接メールへ移行した事犯が約9割。
(5頁・第2-8-1)

サイトで隠語を使用していた事犯が約25%(上半期は約6%)。
(6頁・第2-9)

(3) 被害児童に対する保護者等の指導状況

サイト利用について保護者が「放任していた」が約4割(上半期は約6割)。
(13頁・第3-9)

サイト利用について学校から「教えてもらっていた」が約4割(上半期は約2割)。
(13頁・第3-10)

(4) 被害児童のフィルタリング加入状況

アクセス手段として携帯電話を使っていた事犯が約9割。
(11頁・第3-5)

フィルタリングに加入していなかった被害児童が9割以上(上半期も同様)。
(14頁・第3-11)

(5) E M A 認定サイトに起因する事犯が約6割(上半期は約5割)。

(15頁・第3-13)

4 今後の対策

実効性のあるゾーニングの促進

ミニメールの監視体制拡充の促進

フィルタリングの普及徹底

E M A におけるサイトの認定・監視機能の強化促進

E M A (略称エマ)...モバイルコンテンツ審査・運用監視機構

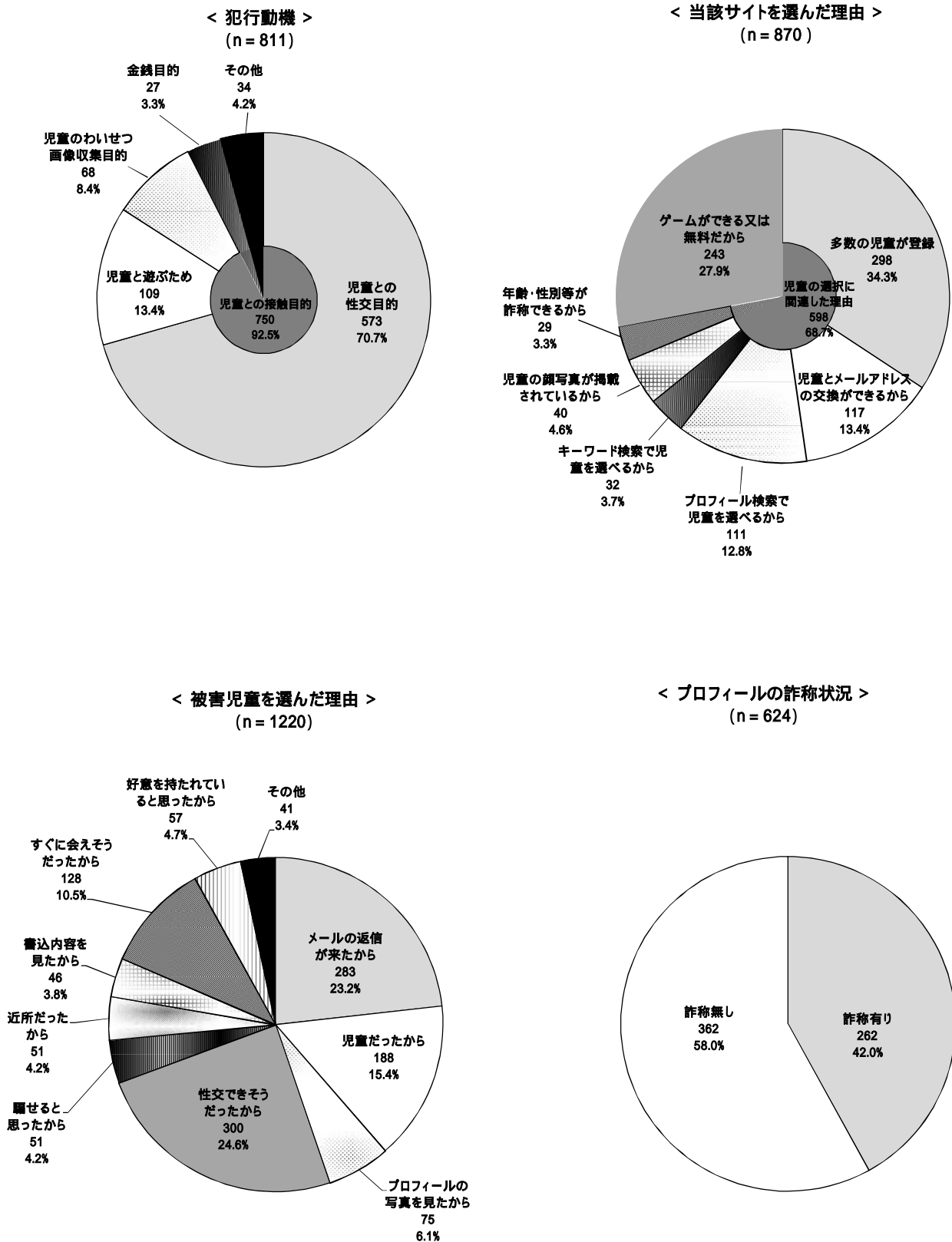
【Content Evaluation and Monitoring Association】

青少年を違法・有害情報等から保護し、健全育成する観点から、サイトを認定・監視し、啓発教育を促進するための、有識者からなる第三者機関。平成20年4月設立。

別添

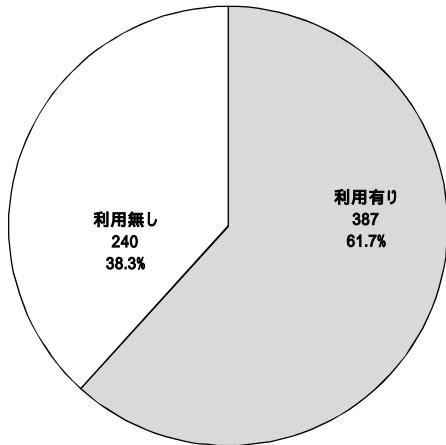
平成22年下半期におけるコミュニティサイトに起因する児童被害の事犯に係る調査分析(抜粋)

1 被疑者の犯行動機等

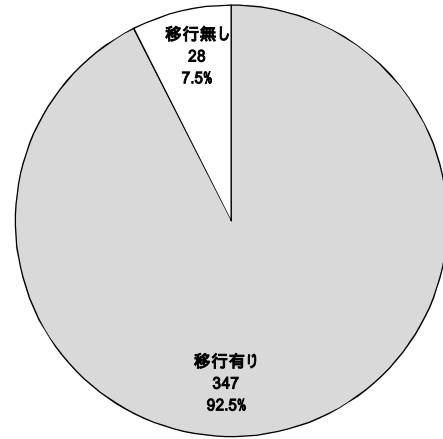


2 被疑者のミニメール利用状況

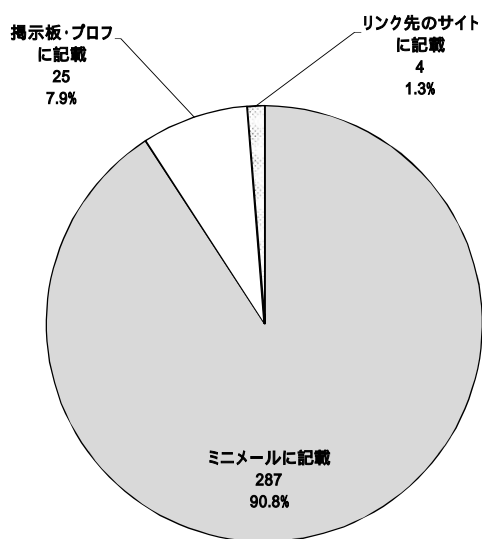
< ミニメールの利用状況 >
(n = 627)



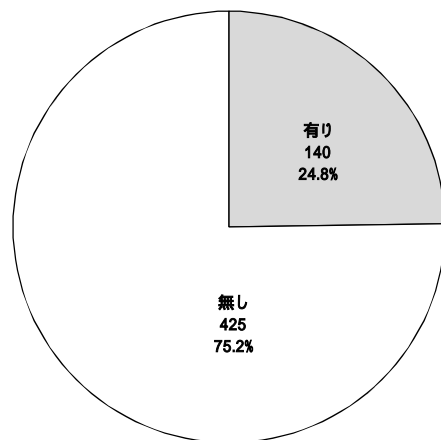
< ミニメールから直接メールへの移行状況 >
(n = 375)



< 直接メールアドレス等の連絡方法 >
(n = 316)



< サイトにおける隠語の使用状況 >
(n = 565)

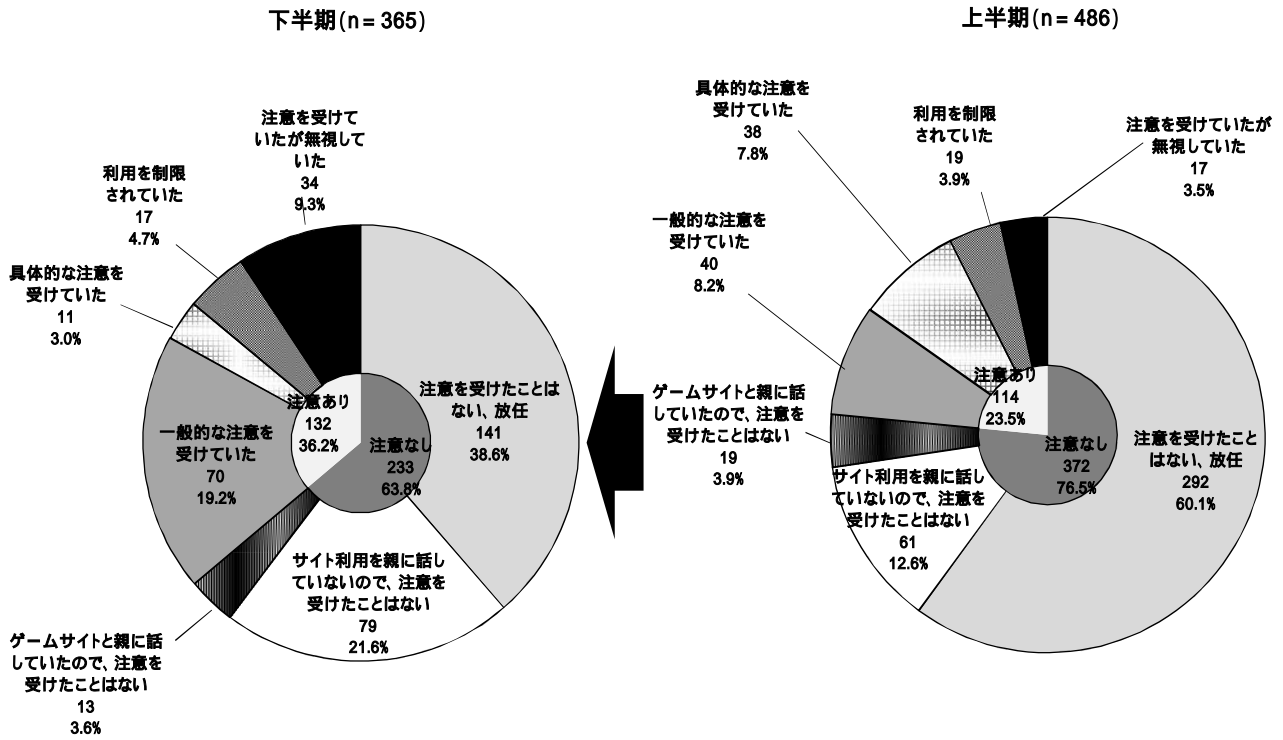


携帯電話番号やメールアドレス等を次のような隠語を使って記載している。

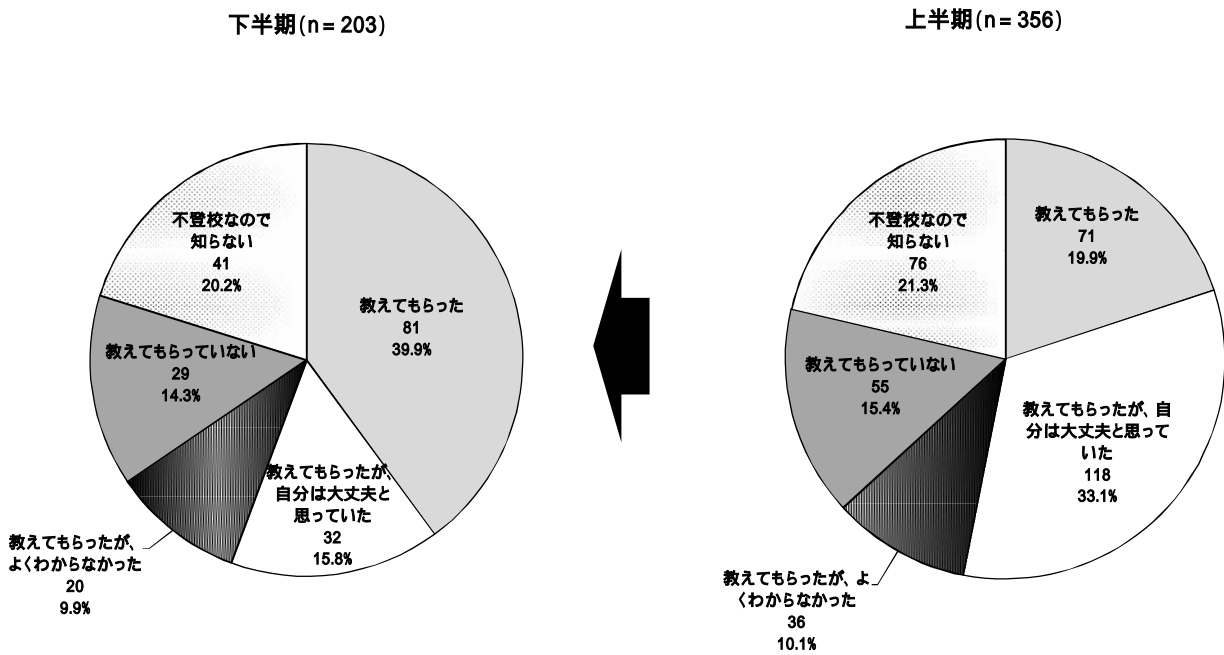
- ・ わらわ-あかさた-なはまや(ひらがなで記載)
- ・ 丸数字(、)や漢数字(壹、一)
- ・ 変形した文字や数字
- ・ 略語

3 被害児童に対する保護者等の指導状況

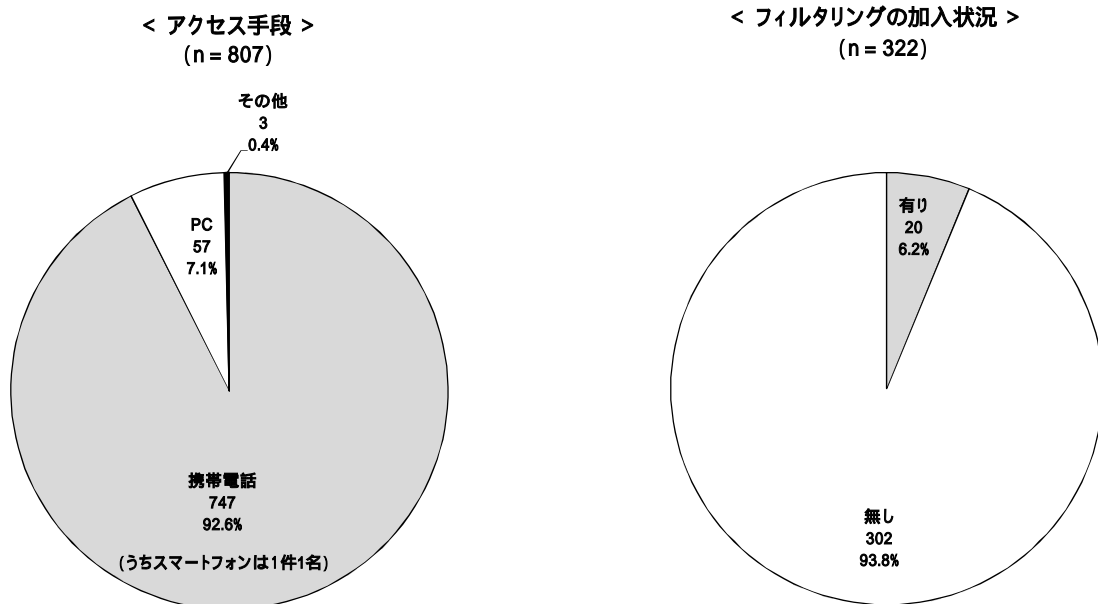
< 親による指導状況 >



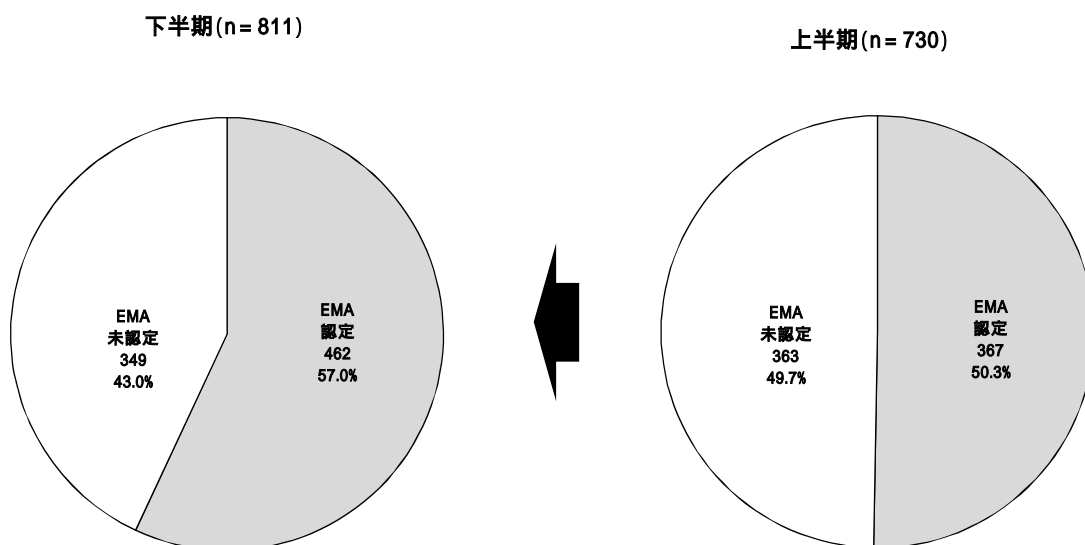
< 学校による指導状況 >



4 被害児童のフィルタリング加入状況



5 EMA認定サイトに起因する被害発生状況



平成23年5月

コミュニティサイトに起因する
児童被害の事犯に係る調査分析
(平成22年下半年期)

警察庁生活安全局情報技術犯罪対策課

目 次

第1 調査分析の趣旨等	1
1 趣旨	1
2 調査分析の対象	1
3 調査分析の方法	1
第2 被疑者に関する調査分析	2
1 犯行動機	2
2 当該サイトを選んだ理由	2
3 被害児童を選んだ理由	3
4 サイト上で被害児童と知り合ってから犯行に及ぶまでの日数	3
5 当該サイトへのアクセス手段	4
6 使用携帯電話の名義	4
7 ミニメールの利用状況	5
8 ミニメールから直接メールへの移行状況	5
9 サイトにおけるの隠語の使用状況	6
10 プロフィールの詐称状況	7
11 年齢層	8
第3 被害児童に関する調査分析	9
1 当該サイトを利用した理由	9
2 当該サイトに対するイメージ	9
3 当該サイトの利用期間	10
4 被疑者と会った理由	10
5 当該サイトへのアクセス手段	11
6 使用携帯電話の名義	11
7 インターネットの利用経歴	12
8 プロフィールの詐称状況	12
9 保護者による指導状況	13
10 学校による指導状況	13
11 フィルタリングの加入状況	14
12 携帯電話購入時の来店状況	14
13 E M A 認定サイトに起因する被害発生状況	15
第4 検挙事例	16

第1 調査分析の趣旨等

1 趣旨

平成22年下半期における出会い系サイトに起因する事犯の被害児童は113人(前期比-75人 -39.9%)と減少する一方、コミュニティサイト(出会い系サイトを除く。以下同じ。)に起因する事犯の被害児童は638人(前期比+47人 +7.9%)と増加していることから、サイト事業者の自主的な取組みの強化や保護者に対するサイト利用に伴う危険性の周知等被害防止対策に役立てるため、平成22年上半期分の調査に引き続き、下半期分のコミュニティサイトに起因する事犯の詳細を調査分析したものの。

2 調査分析の対象

平成22年下半期に検挙したコミュニティサイトに起因する児童被害の福祉犯罪等811件(被疑者631人、被害児童638人)

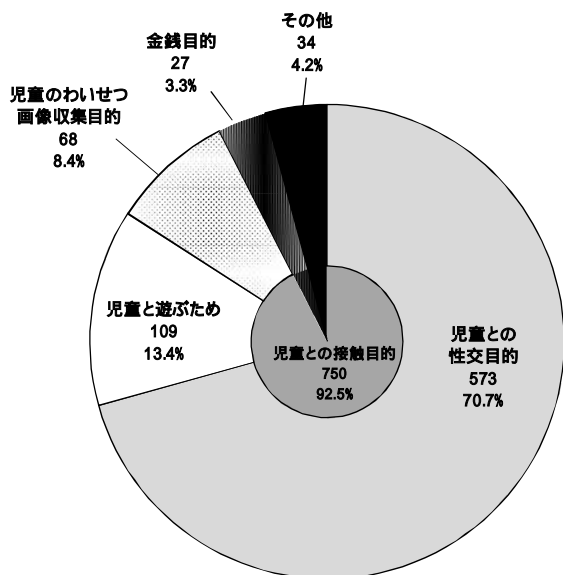
3 調査分析の方法

平成22年下半期に検挙した811件の捜査の過程で判明した事実を基に、調査分析の項目ごとに集計した。したがって、調査項目に係る事実が判明した検挙事犯のみの件数の集計である。

第2 被疑者に関する調査分析

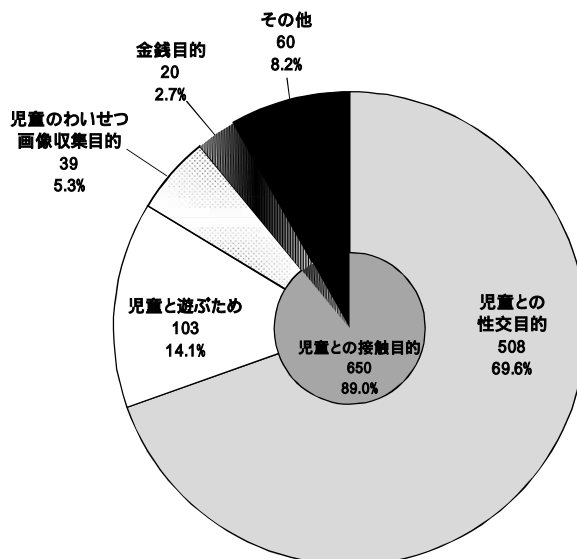
1 犯行動機

(n = 811)



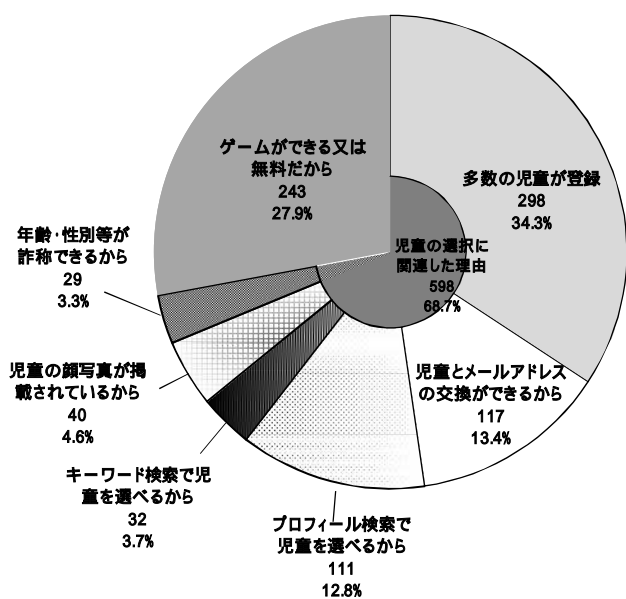
上半期(参考)

(n = 730)

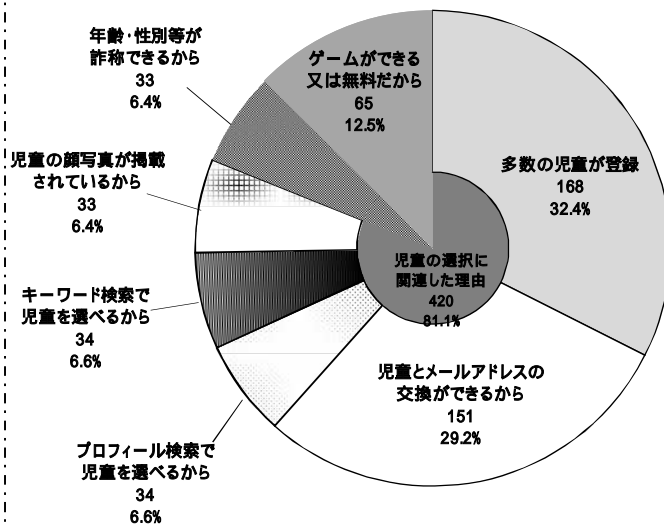


2 当該サイトを選んだ理由

(n = 870)



(n = 518)

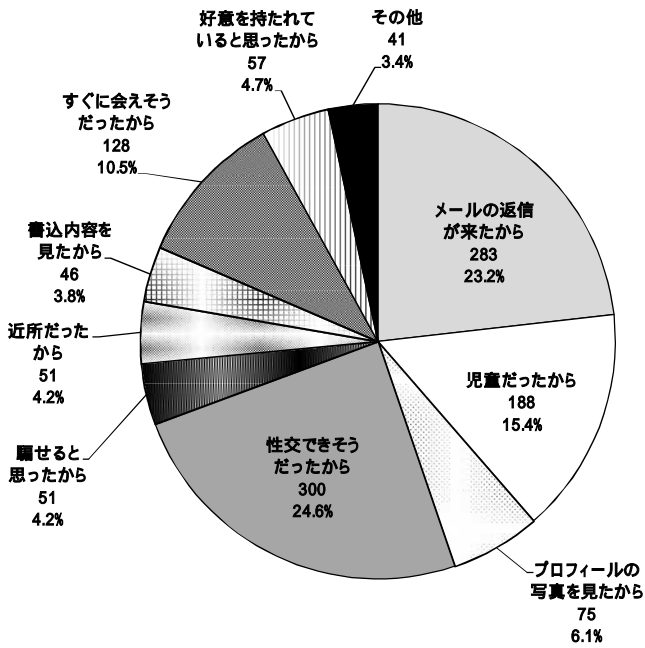


児童との接触目的に関連している理由が約7割。
上半期に比べて「ゲームができる又は無料だから」の理由が大幅に増加している。

下半期

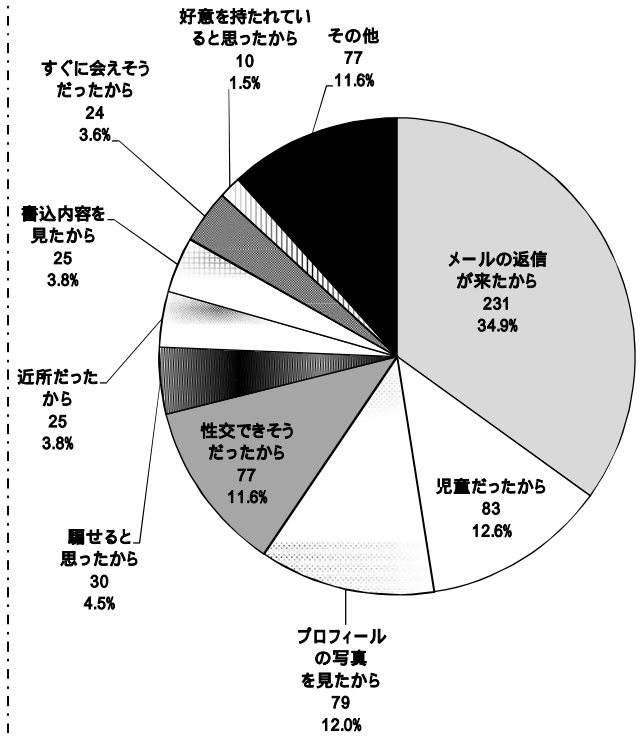
3 被害児童を選んだ理由

(n = 1220)



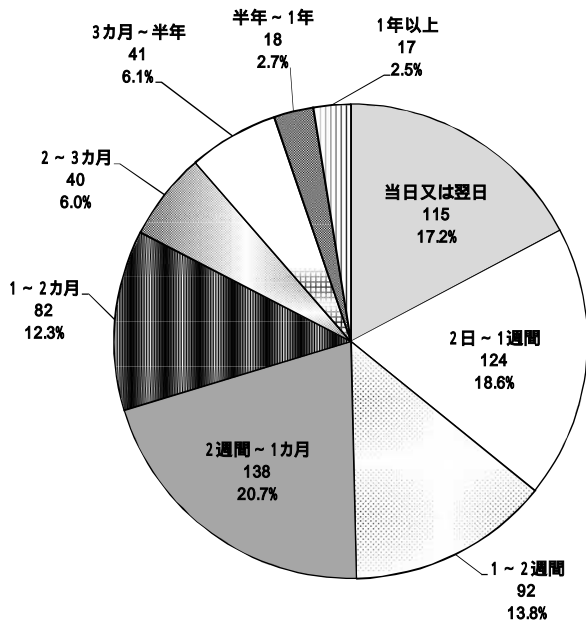
上半期(参考)

(n = 661)

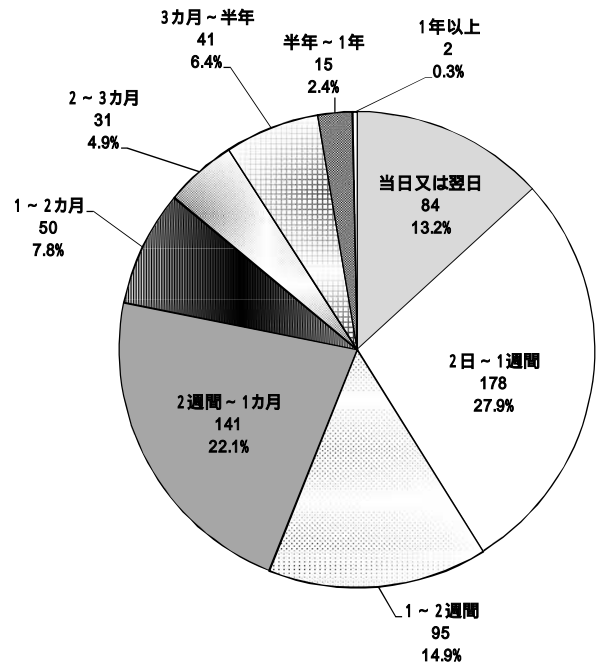


4 サイト上で被害児童と知り合ってから
犯行に及ぶまでの日数

(n = 667)



(n = 637)

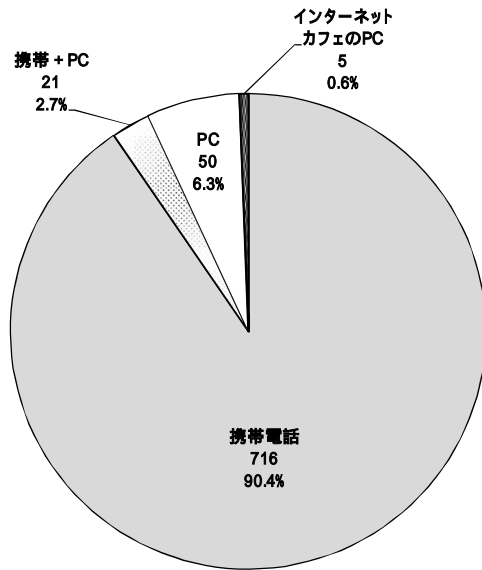


サイト上で知り合ってから2週間以内に犯行に及んだ事犯が約5割。

下半期

5 当該サイトへのアクセス手段

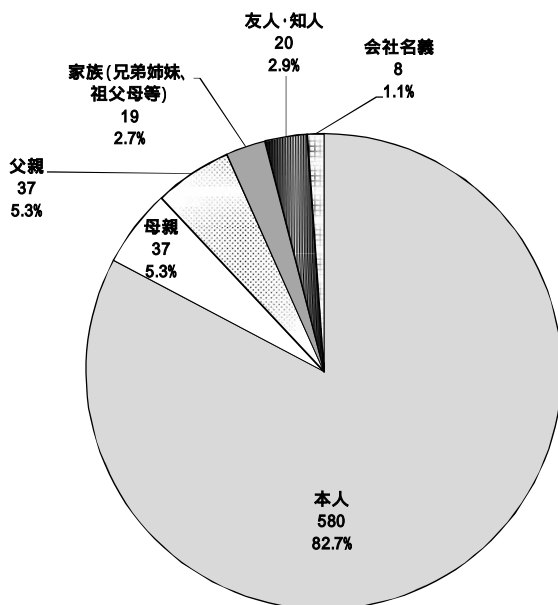
(n = 792)



携帯電話のうち、スマートフォンが17件(2.1%)。

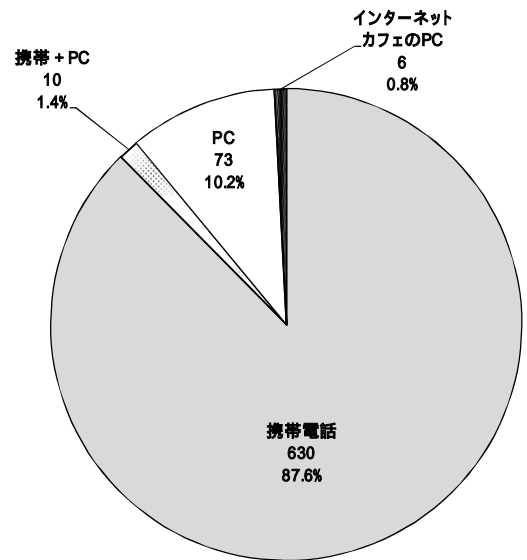
6 使用携帯電話の名義

(n = 701)

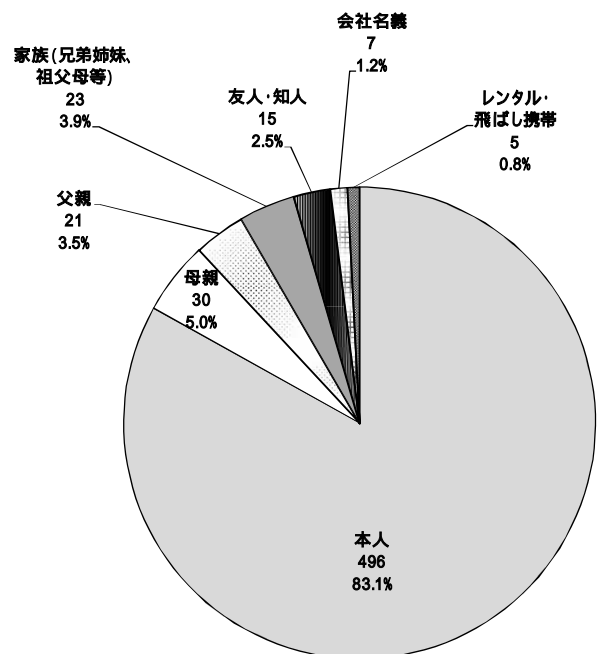


上半期(参考)

(n = 719)



(n = 597)

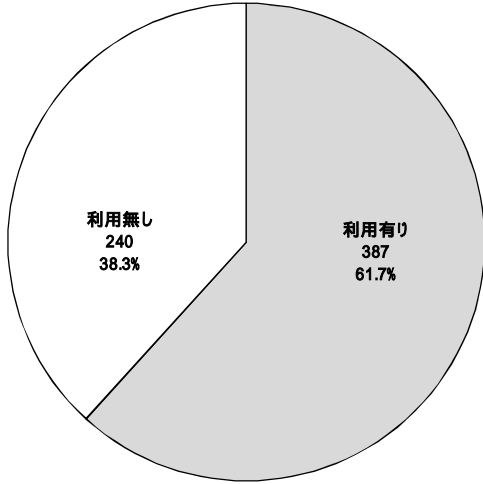


下半期

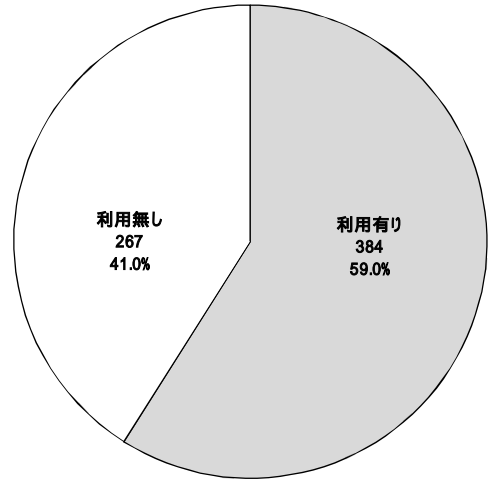
上半期(参考)

7 ミニメールの利用状況

(n = 627)

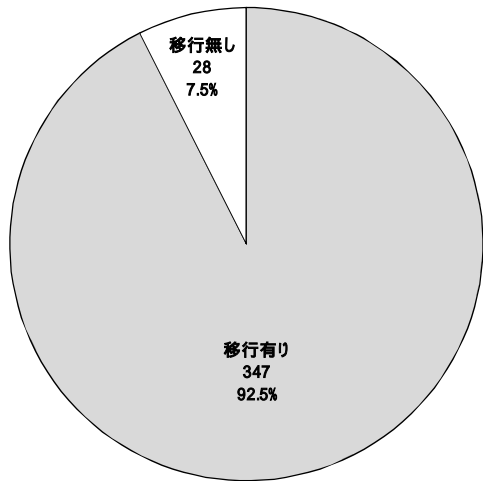


(n = 651)

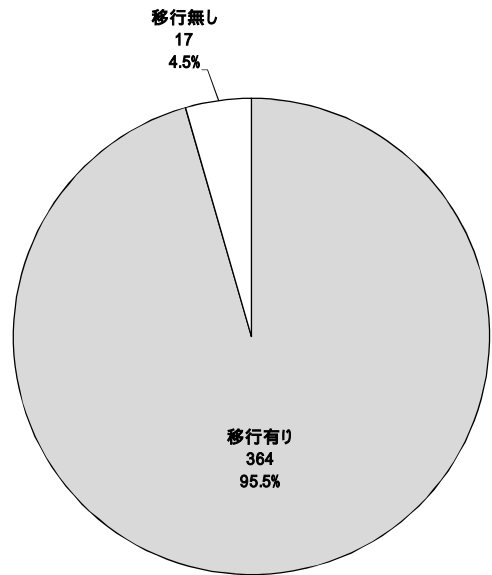


8-1 ミニメールから直接メールへの移行状況

(n = 375)



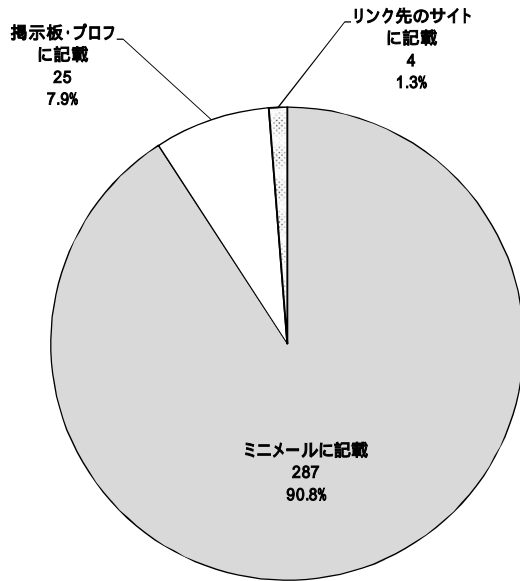
(n = 381)



下半期

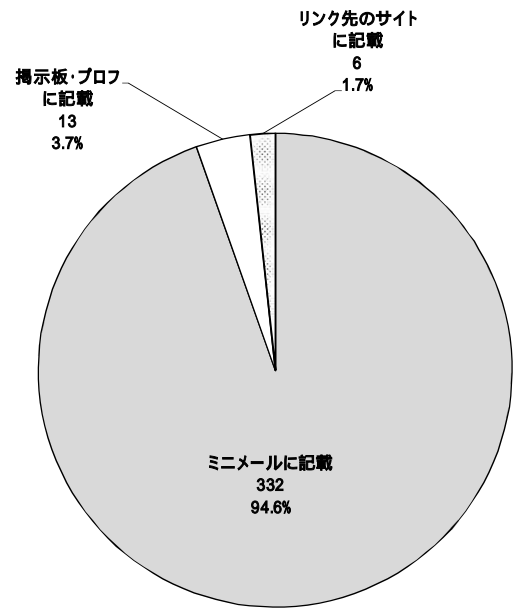
8-2 直接メールアドレス等の連絡方法

(n = 316)



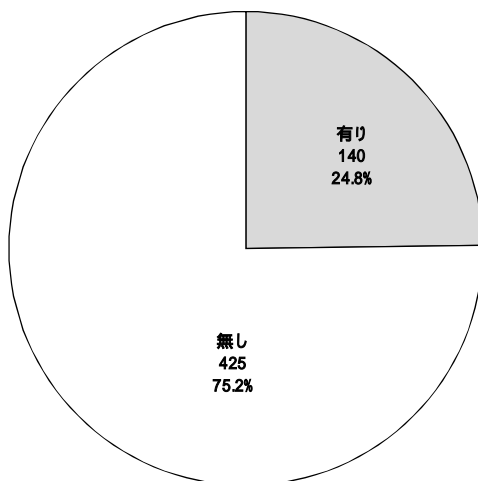
上半期(参考)

(n = 351)



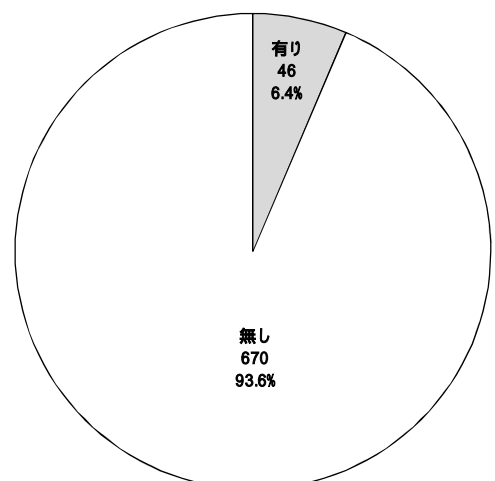
9 サイトにおける隠語の使用状況

(n = 565)



上半期よりも「隠語使用有り」が増加しており、事業者がサイト監視を始めたこと等が要因として考えられる。

(n = 716)



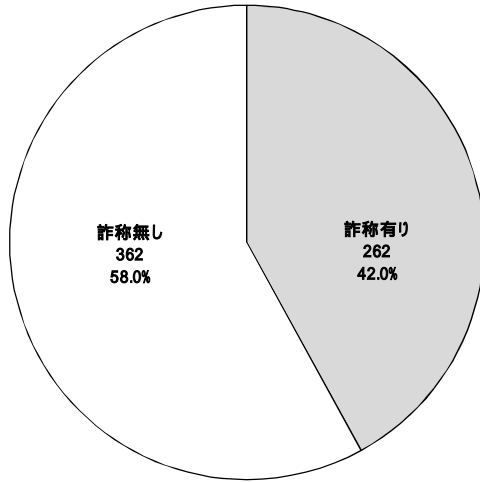
携帯電話番号やメールアドレス等を次のような隠語を使って記載している。

- ・ わらわ-あかさた-なはまや(ひらがなで記載)
- ・ 丸数字(、)や漢数字(巻、一)
- ・ 変形した文字や数字
- ・ 略語

下半期

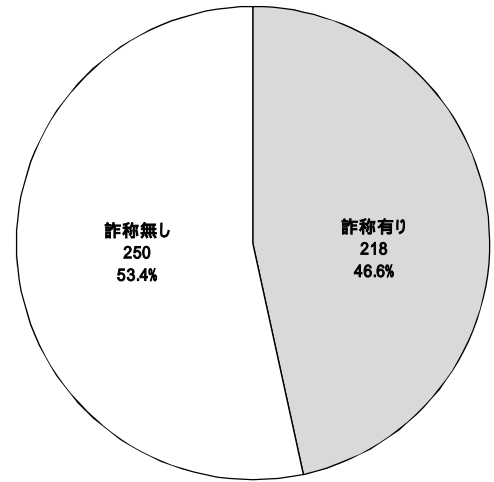
10-1 プロフィールの詐称状況

(n = 624)



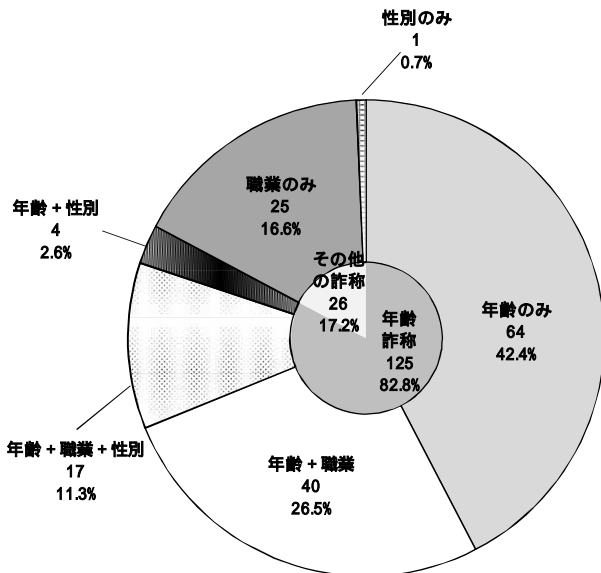
上半期(参考)

(n = 468)

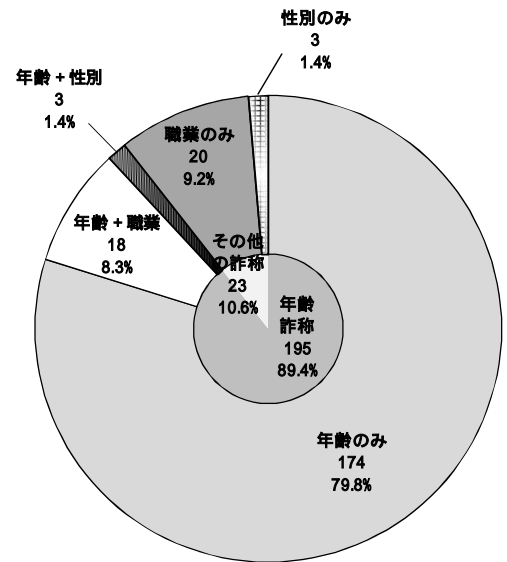


10-2 詐称内容

(n = 151)



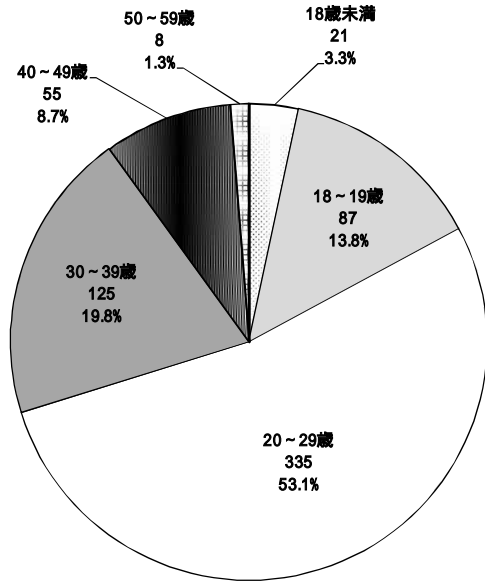
(n = 218)



上半期よりも詐称の巧妙化が窺える。

下半期

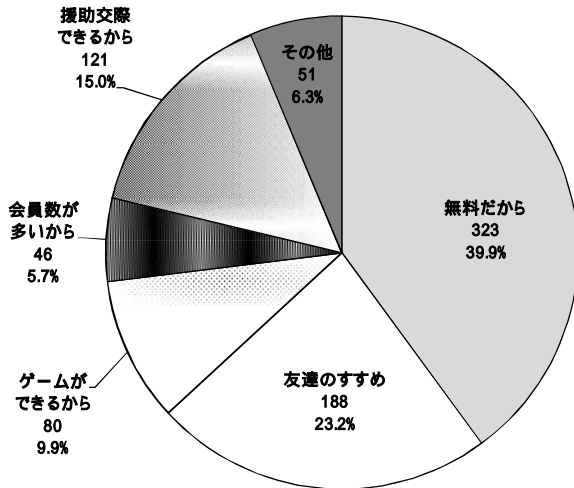
11 年齢層
(n = 631)



第3 被害児童に関する調査分析

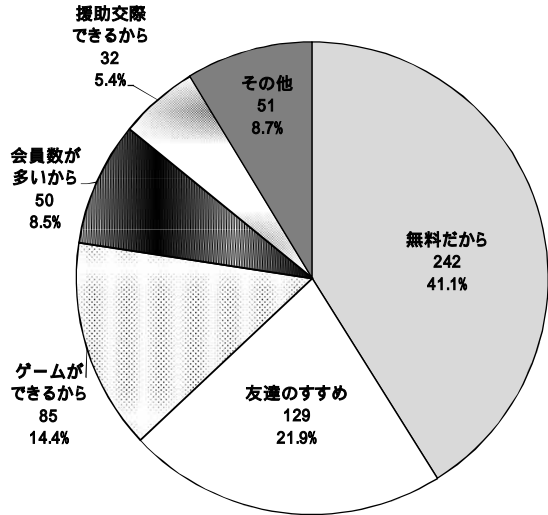
下半期

1 当該サイトを利用した理由 (複数回答あり)
(n = 809)

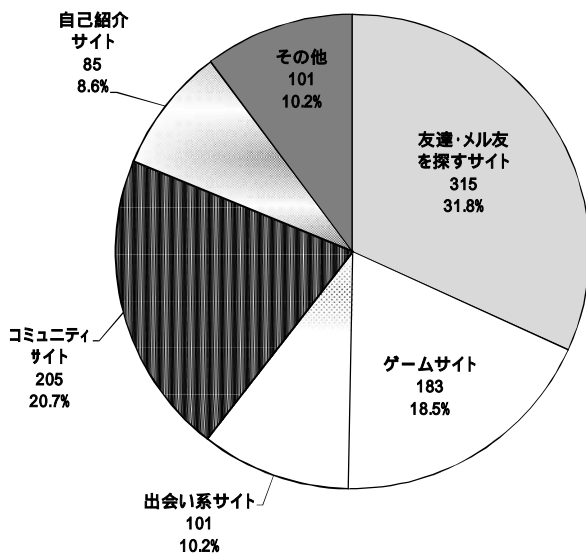


上半期(参考)

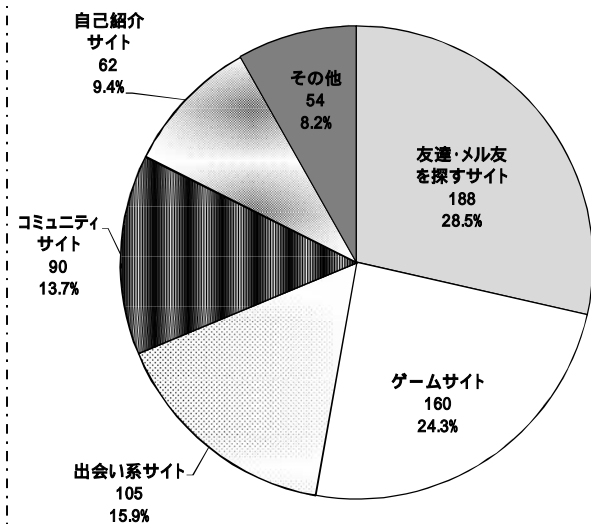
(n = 589)



2 当該サイトに対するイメージ (複数回答あり)
(n = 990)



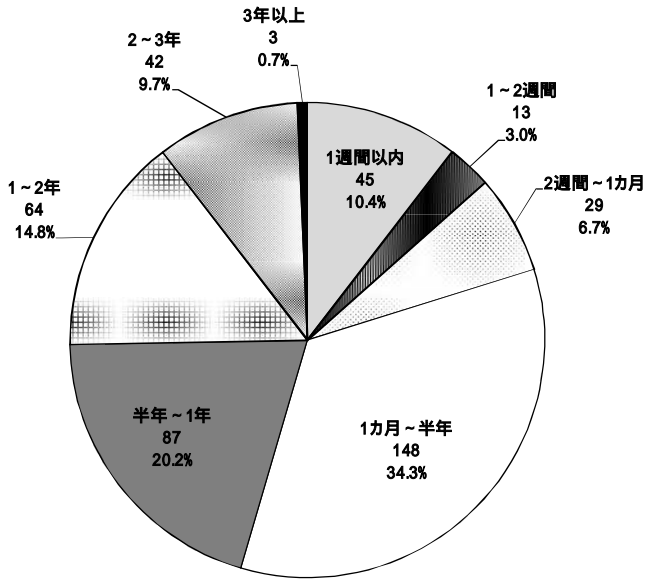
(n = 659)



下半期

3 当該サイトの利用期間

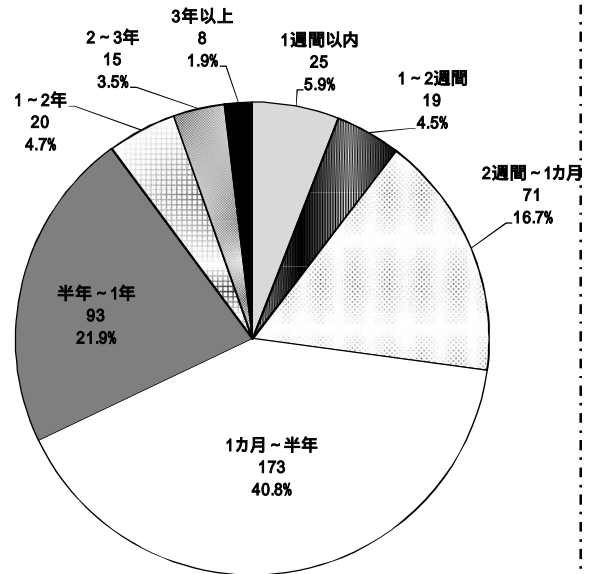
(n = 431)



当該サイトの利用期間は、半年以下の利用期間が上半期の約7割から約5割に減少した。

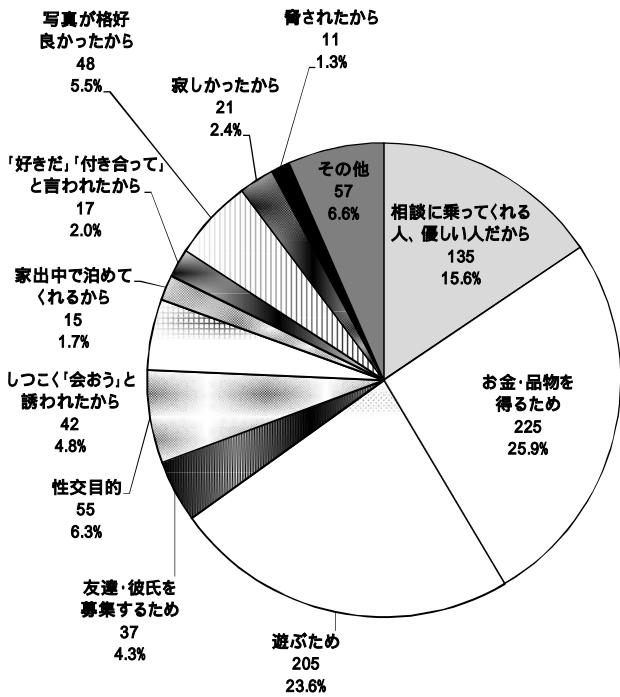
上半期(参考)

(n = 424)

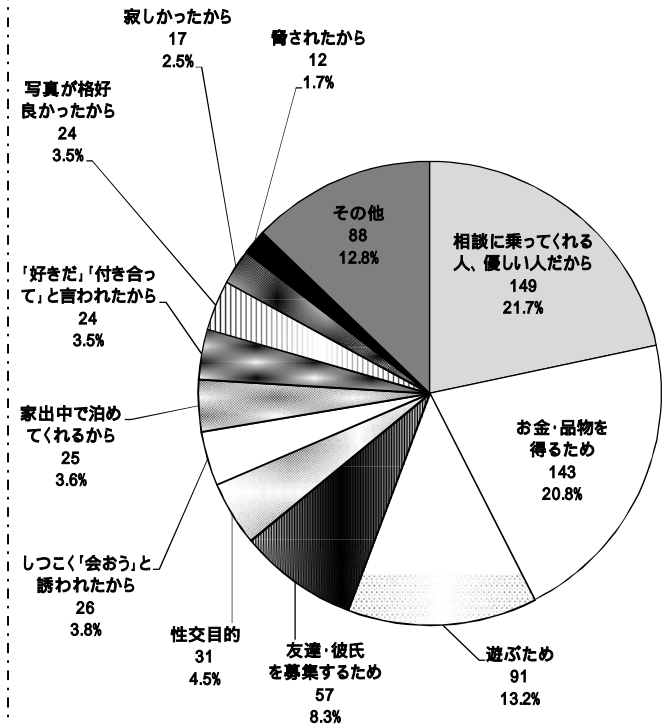


4 被疑者と会った理由 (複数回答あり)

(n = 868)



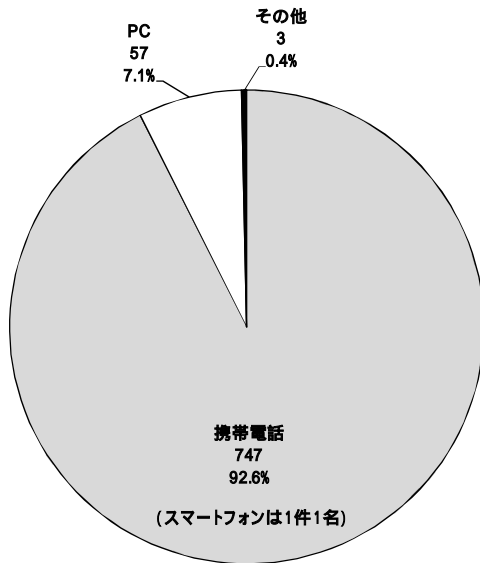
(n = 687)



下半期

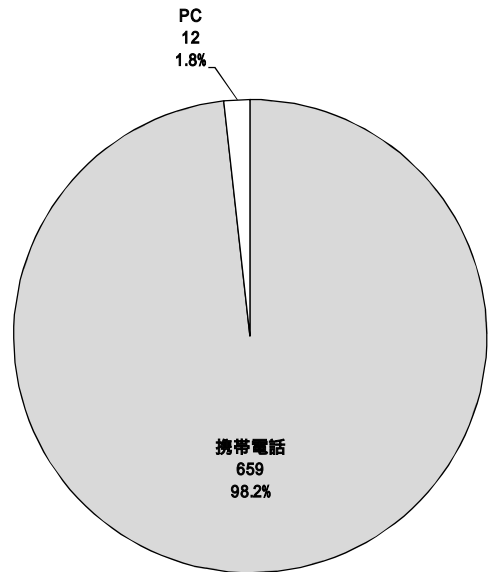
5 当該サイトへのアクセス手段

(n = 807)



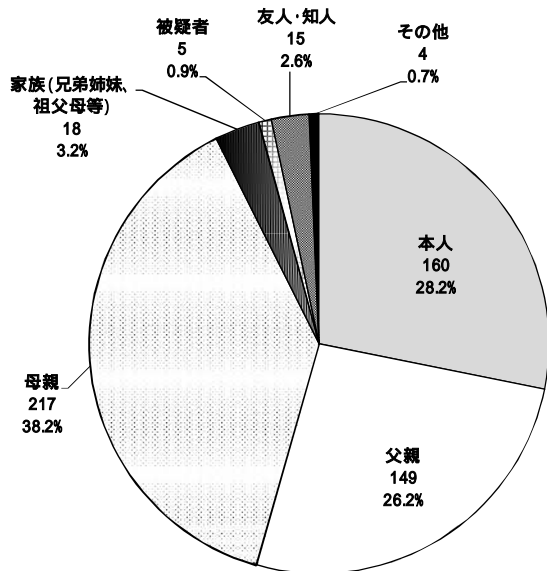
上半期(参考)

(n = 671)

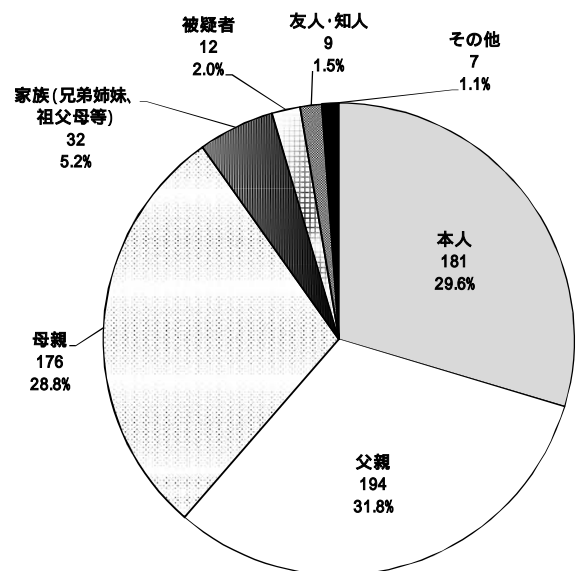


6 使用携帯電話の名義

(n = 568)



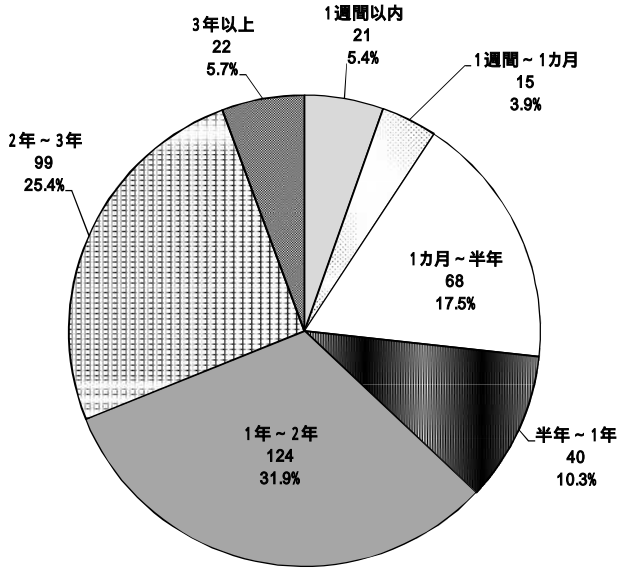
(n = 611)



下半期

7 インターネットの利用経歴

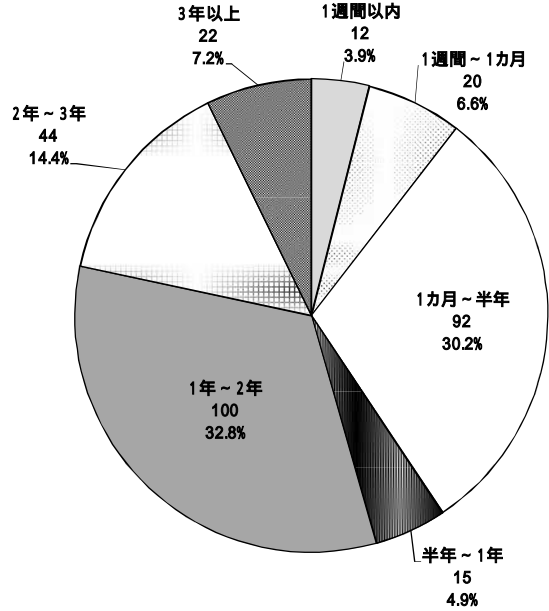
(n = 389)



半年以内に利用し始めたインターネット初心者は、上半期に比べて減少した。

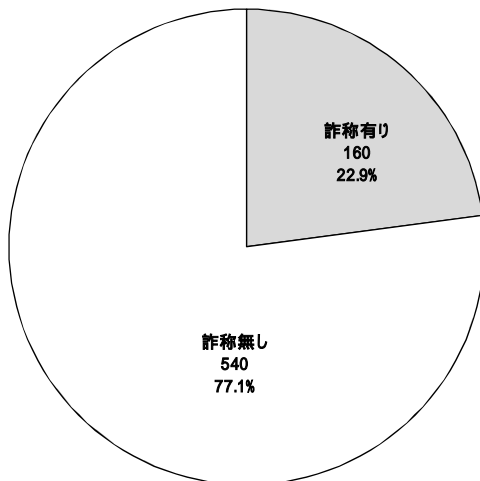
上半期(参考)

(n = 305)

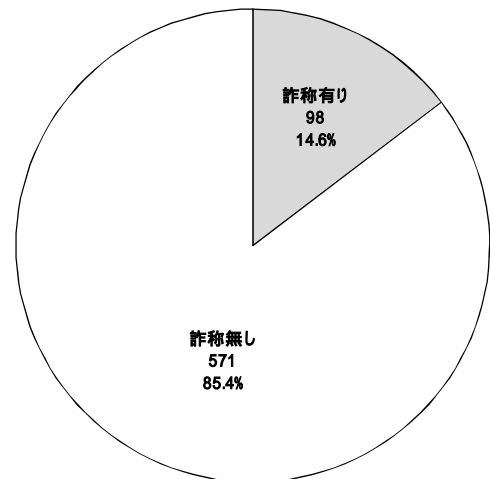


8 プロフィールの詐称状況

(n = 700)



(n = 669)

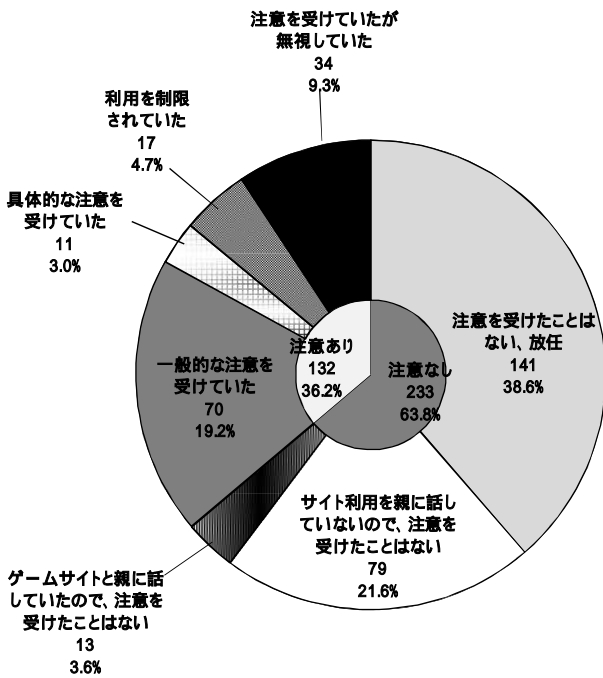


詐称有り98件中82件は、年齢の詐称であった。

下半期

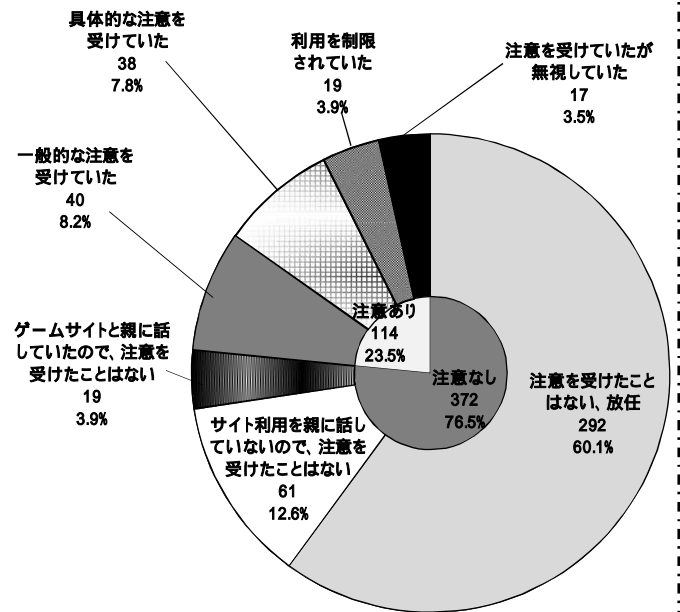
9 保護者による指導状況

(n = 365)



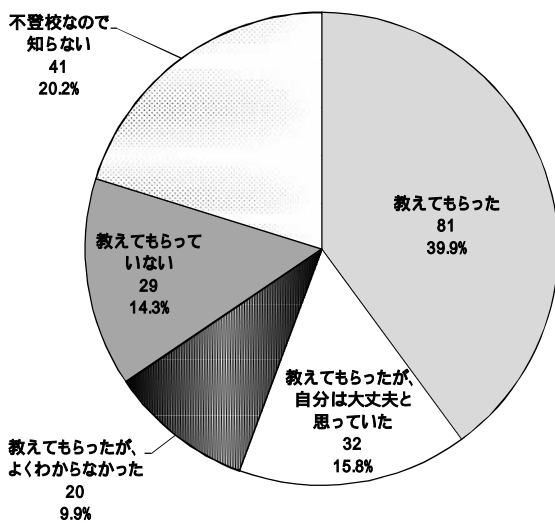
上半期(参考)

(n = 486)

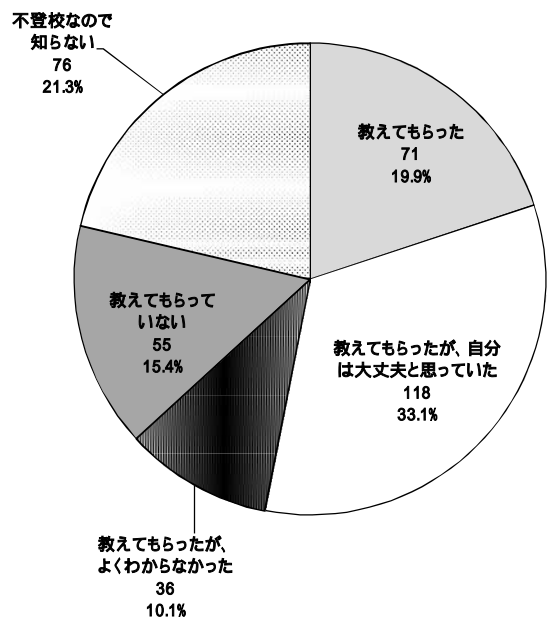


10 学校による指導状況

(n = 203)



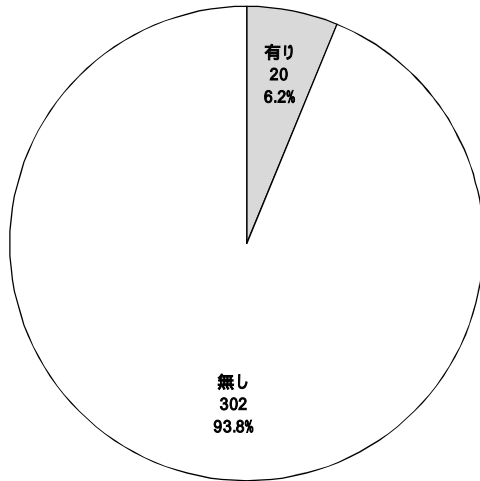
(n = 356)



下半期

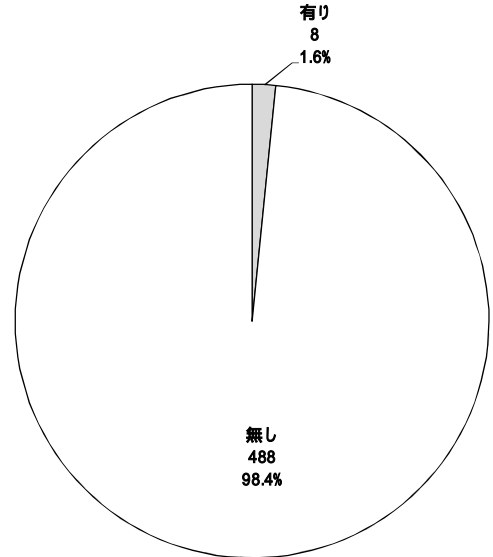
11 フィルタリングの加入状況

(n = 322)



上半期(参考)

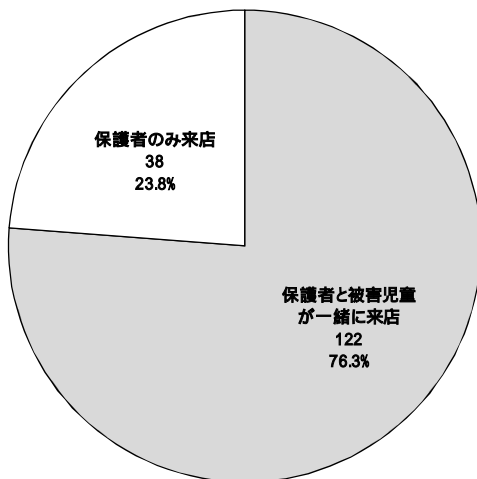
(n = 496)



上半期は件数で公表
被害児童数で再調査

12 携帯電話購入時の来店状況

(n = 160)



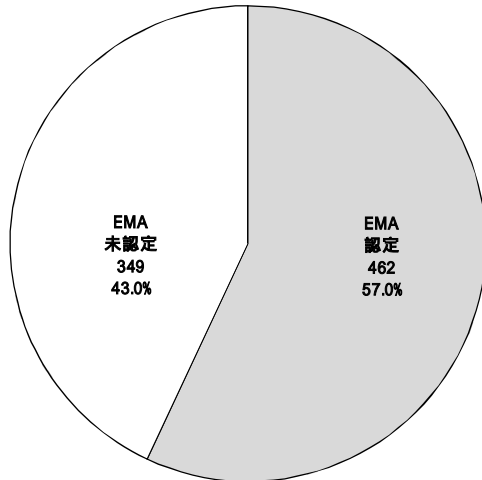
No.11 フィルタリング加入状況におけるフィルタリング加入ありの20人の内訳

- ・ 保護者と被害児童と一緒に来店 14人
- ・ 保護者のみ来店 1人
- ・ 不明 5人

下半期

13 EMA認定サイトに起因する被害発生状況

(n = 811)



一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構(EMA)

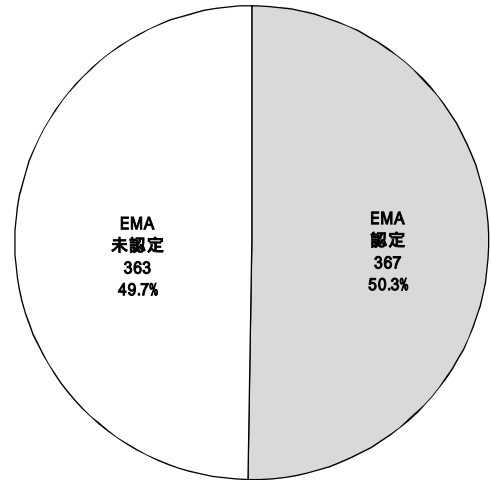
EMAは、モバイルコンテンツの健全な発展と、青少年の発達段階に応じた主体性を確保しつつ違法・有害情報から保護することを目的として2008年4月に発足した第三者機関である。

[EMAの主な活動]

- 1 青少年の利用に配慮したモバイルサイトの審査、認定及び運用監視業務
- 2 青少年保護と健全育成を目的としたフィルタリングの改善
- 3 ICT(情報通信技術)リテラシーの啓発・教育活動

上半期(参考)

(n = 730)



第4 検挙事例

【青少年保護育成条例違反（みだらな性行為等違反）、児童買春・児童ポルノ法違反（児童ポルノ）】

被疑者（教員・男・50歳）は、路上に駐車した自動車内において、携帯電話のゲームサイトを通じて知り合った女子児童（15歳）とみだらな行為をし、同児童に全裸で性交する姿態等をとらせた上で、被疑者が使用する携帯電話機付属のカメラ機能により静止画及び動画として撮影して、児童ポルノ画像を製造した。（11月・広島県）

【児童買春・児童ポルノ法違反（児童ポルノ）】

被疑者（無職・男・31歳）は、携帯電話機のブログサイト等において、小学生の女子児童になりすまし、同サイトに登録していた女子児童らに対して、友達欲しいなどのメールを送信し、返信してきた女子児童（12歳）に対し、なりすました女子児童の画像を送信して、下着姿の画像を交換した上で、さらなる画像の交換を要求し、それを拒否すると入手した画像をネット上に公開するなど脅して、同児童に携帯電話機付属のカメラにより自己の裸体等を撮影した画像を被疑者の携帯電話機に電子メールに添付して送信させ、これを被疑者の携帯電話機に保存して児童ポルノを製造した。（8月・北海道）

【児童買春・児童ポルノ法違反（児童買春）】

被疑者（建設作業員・男・23歳）は、インターネットの自己紹介サイトに投稿されていた女子児童（16歳）のプロフィール中のメールアドレスに対し、掲示板見たよなどとメールを送信して知り合い、現金を払う約束をして、ホテルでわいせつな行為をした。（7月・警視庁）

【準強姦、児童買春・児童ポルノ法違反（児童ポルノ）】

被疑者（会社員・男・34歳）は、携帯電話のゲームサイトにおいて、中学3年生の女子児童になりすまし、同サイトで知り合った女子児童（15歳）に、自己の胸部が露出した姿態を取らせた上、これを同児童が使用する携帯電話機付属のカメラ機能により静止画として撮影させ、被疑者の携帯電話機宛てに電子メールの添付ファイルとして送信させて保存し、児童ポルノ画像を製造した。

さらに、インターネットの監視団体を名乗り、わいせつ画像が添付された電子メールが確認されたので警察や裁判所に通報するなどのメールを送信して同児童を畏怖させるとともに、なりすました中学3年生として、被疑者の要求に応じるしかないと仕向ける内容のメールを送信して、同児童を困惑させ、同児童の反抗を抑圧した上で姦淫した。（10月・高知県）